

安全性と根治性を第一に、
がんなどの高度外科治療に取り組みます

当院の呼吸器外科の特徴

当科では胸部疾患（肺がん、転移性肺腫瘍、良性腫瘍、胸壁腫瘍、自然気胸、胸部外傷）、縦隔疾患（縦隔腫瘍）などを中心に診療を行っています。

年間約 70 ～ 80 例の全身麻酔呼吸器外科手術を行っており、胸腔鏡手術から拡大手術まで幅広く対応しています。手術では安全性や確実性とのバランスを考慮して、患者さん一人ひとりの状態に合わせたベストな方法を考えて行います。

総合病院の中の呼吸器外科である強みを生かして、呼吸器内科、病理診断科、放射線治療部と連携を図り、適切で積極的な治療を行うことができます。呼吸器内科とは手術適応、治療方針等について週 1 回のカンファレンスで検討を行っています。



肺がんの治療について

当院では肺がんに対しては胸腔鏡（内視鏡）手術を多く行っています。従来の手術法と比べ、術後の痛みや機能障害が少なく、早期に退院が可能です。



進行がんには呼吸器内科・放射線科と連携し手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた治療を行います。

また、術後のフォローアップを大事にしています。抗がん剤などによる術後補助化学療法を行い、再発を抑えます。

※胸腔鏡（きょうくうきょう）手術とは、胸に小さな傷をつけて行う手術方法で、2-3cm 程の切開を複数作成し、そこからカメラと手術道具を挿入して行う手術です。「バツツ」とも言います。バツツとは VATS と書きますが、これは胸腔鏡下手術（video-assisted thoracoscopic surgery）の頭文字を取った略語です。

担当医師紹介



部長
加藤 靖文
(かとう やすふみ)

日本外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科学会専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
日本呼吸器学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医師緩和ケア研修会修了
がんのリハビリテーション研修修了



医員
福田 賢太郎
(ふくだ けんたろう)

日本外科学会専門医
難病指定医
緩和ケア研修会修了



非常勤医師
林 博樹
(はやし ひろき)

肺がん検診について

肺がんは、現在ではがん死亡原因の第一位となっており、がんの中でも悪性度が高く生存率が低い病気であると言われています。しかし、早期のうちに発見し、治療の選択肢を多く持つことができれば、治すことが可能です。そのためには「肺がん検診」の受診がなにより重要です。胸部レントゲン写真による検診で発見された場合、5 年生存率はほぼ 40%、CT を用いる検診では、5 年生存率 80% 以上という実績が示されています。当院の人間ドックでも受診が可能ですので、ぜひ積極的にご利用下さい。